

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
盛岡ひまわり学園		令和7年 3月 14日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	18	1	状況に応じ机や椅子を片付けスペースを広くするなど環境を整備して使用しています。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	11	7	園児9～11名に対し職員3名と給食介助員1名（10時～13時）を配置しています。また、職員が休んだ際は必ず代替の職員を入れるようにし、午前中は4名の職員数を確保するようにしています。	子どもの障がい特性によっては1対1対応が必要となる場合もあり、現状の職員配置では難しいと感じられることもあります。これに関しては、職員の質を高めることで解消できる部分もあると思いますので、継続して質の向上を目指していきたいと思います。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	12	6	施設自体が古いので、完全なバリアフリー化は難しいですが、エレベーターが設置されていたり障がいの特性に応じた構造化や環境の配慮等はできる範囲で行っています。	トイレが和式だったり、冬でも水で手を洗うなど不便な点が多く、老朽化も進んでいるため建て今後は建て替えが必要な状況です。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	13	5	毎日の清掃と消毒は徹底して行っており、清潔は保たれていると思います。床や棚などの剥がれやささくれに関してもできる範囲で直しながら使用しています。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	16	3	1室部屋が空いているため、必要に応じて利用できる環境になっています。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	17	2	毎月のクラス長会議で話し、その後クラス間で共有しています。	職員全員で話し合う時間を設けたいと思っています。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	18	1	職員会議で共有し、意見を募りました。	改善できそうな部分に関しては、早急に取り組んでいきます。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	16	2	年に数回目標設定面談を設けており、その中で職員の意見を聞いています。	全員で話し合う機会を設定する必要があると思うので、検討していきたいです。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	17		4～5年に1度岩手県福祉サービス第三者評価を受診しており、その結果を職員間で共有し業務改善につなげています。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	18	1	年間計画に沿って、また、必要に応じて研修への参加を促しています。	今後は、ケース検討会を定期的に行ったり、視察研修なども積極的に行っていきたいと思っています。
適切な支援の	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	18	1		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	18	1	保護者の願いをもとに、保護者と話し合いながら作成しています。	アセスメントの見直しを行っていく必要があると考えています。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	18	1	支援会議にはクラス職員、栄養士、相談支援専門員等が参加し、それぞれの立場で意見を出し合いながら検討しています。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	19			回覧で全職員に共有はしているが、会議等の場で共通理解を図ることができていないため、今後検討していく必要があります。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	17	2	年に1～2回の発達検査と日々の行動観察などを通して、状況の確認を行っています。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	19			様式が変更になり記載の仕方に慣れていない部分もあるので、今後も全員で情報を共有したり検討を重ねていく必要があります。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	19		クラスで話し合い、組指導計画や活動内容を立案しています。また、評価・反省を行い次につなげています。	

提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	16	3	年間計画、期ごとの計画、毎月の計画を立案し、目標やねらいを定めながら日々の活動が固定化しないように工夫しています。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	17	2	午睡しない子どもに関しては、午後の時間を個別活動の時間に充てるなどクラス毎に対応しています。	個々に応じた対応が必要になってくるため、体制を整えていく必要があります。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	17	2	活動内容と大まかな動きに関してはクラス毎に、毎朝打ち合わせを行っています。 厨房職員に関しては、アレルギーや提供の仕方など細かく確認しています。	一人一人のねらいや展開の仕方などについて詳細な打ち合わせをするための時間やチーム全員揃うことが難しい状況にあるため、調整や工夫が必要です。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	14	4	打ち合わせは行っていますが、日々の会話の中で振り返る機会を設けたり気付いたことなどを共有しています。	PDCAサイクルを定着させる必要があると思うので、今後の検討課題です。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	18	1	組指導日誌を毎日記録し、個々の支援記録も定期的にまとめています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	18	1	半年に1回モニタリングをし、保護者とともに振り返り次につなげています。	半年ごとにこだわらず、必要に応じて見直しができるようにしていきたいところです。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	18	1	担当職員と必要に応じて児発管が参加し、情報を共有しています。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	18	1	保健師や主治医、また移行先の保育園、幼稚園、就学先の学校と必要に応じて連携をとっています。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	18	1	保育園や幼稚園へ移行する場合には情報共有を行い、移行後も必要に応じてフォローするなどしています。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	19		学園での様子を見学に来ていただいたり、引継ぎをするなど情報共有を行っています。	
	28	(28～30は、センターのみ回答)	11	6	他事業所からの見学受け入れは積極的に行っています。また、関係する保育園等に研修会の案内を出すなど取り組みが始まったところです。	他事業所へのスーパーバイズ等に関しては、今後体制を整えて行っています。
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外泊研修に参加させているか。	17	1	講師を招いての内部研修で助言を受けたり、外部研修にも積極的に参加を促しています。	今後も積極的な研修への参加を促し、個々の質の向上を図っていきます。
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	16	1	自立支援協議会へは定期的に参加しています。また、その他の会議へも可能な限り参加しています。	
	31	(31は、事業所のみ回答)				
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	18	1	同じ法人内の保育園や地域の保育園と交流会を行っています。また、年に1回地域の子ども会（小学生）との交流会を行っています。	コロナ禍以前ほどの積極性には至っておらず今後の課題です。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	19		年に3回面談を行っておりそこで確認したり、日々の連絡帳や電話でのやり取りを通して確認しています。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	15	4	親子通園主体ですが、案内を出しています。	困り感のある保護者にはプログラムをもとにアドバイスをしています。不十分と感じることも多くさらに研鑽を積んでいきたいところです。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	18	1	契約時に説明を行っています。わからない点に関してはいつでも聞いていただくようお願いしています。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	19		支援計画を作成するにあたり保護者の願いを確認し、それに基づいた目標を立てています。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	19			

保護者への説明等	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	19		日々の連絡帳や電話でのやり取りを通して行っています。また、必要に応じて面談の場を設け助言等を行っています。	保護者と職員との間で、話しやすい関係を作っていきたいと思います。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	16	3	年に3回期末保護者会を開催し、クラスの保護者同士が交流する機会を設けています。ひまわり祭りやうんどう会で交流する機会はありますが、特別な場は設けていません。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	19		担当職員や自発管、園長と相談し、迅速に対応できるように努めています。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	19		学園だよりを毎月発行しています。また、携帯電話のコドモンアプリを活用し、緊急性のある情報等を保護者に発信しています。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	19		写真等の掲載に関しては、文書等で保護者から確認を取っています。また、療育場面の見学者に対しては、個人情報取り扱いについての誓約書を交わしています。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	19			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	16	3	ひまわり祭りやうんどう会に以前は地域の方をご招待していたのですが、今年度も保護者や家族、来賓の方のみとなっています。	ボランティアの受け入れ等も含め、今後の検討課題となっています。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	19		マニュアルに基づいた訓練を定期的に行っています。感染症に関しては、外部講師を招いての研修を行っています。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	18		BCPの策定をしており、避難訓練を計画に沿って行っています。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	17		入園時に書面にて確認し、注意事項なども共有しています。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	17		医師の指示書に基づき栄養士と情報を共有し、保護者にも確認を取りながらアレルギーに対応した給食の提供をしています。	クラス職員、保護者、栄養士とこまめに連携を図っていきます。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	17		安全計画に沿って毎日、バス降車後の安全確認を複数の職員で行い、その都度書面に記録しています。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	15	2		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	13		終礼などで必ず状況について報告し、今後の対応について検討しています。	システムの記録機能を活用し、分析を行いながら再発防止につなげていく必要があります。ヒヤリハットなのかインシデントなのかを考えながら検討していきたいと思います。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	13		毎年虐待に関した園内研修を行うとともに、どのような行為が虐待につながるのかを会議等で投げかけ、職員一人一人が意識できるように働きかけています。	気持ちにゆるみが生じないよう定期的に問題提起をし、考える機会を作っていきたいと考えています。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	11	1	個別面談時にそれぞれの保護者に説明し、了承を得ています。	